

# 訓練・学習の進捗等に特別な配慮が必要な学生への支援・対応ガイド（実践編）

（訓練現場における事例を基にした支援・対応方法のヒント集）

「訓練・学習の進捗等に特別な配慮が必要な学生への支援・対応ガイド（実践編）」（以下「支援・対応ガイド」）は、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」）が、職業能力開発大学校、附属職業能力開発短期大学校、職業能力開発短期大学校（以下「能開大等」）で訓練・学習の進捗等に特別な配慮が必要な学生（以下「配慮を必要とする学生」）の支援・対応の事例を集め、障害者職業総合センター及び職業能力開発総合大学校のノウハウの結集と研究成果を通して、取りまとめた支援・対応方法のガイドです。

教育訓練機関等で、配慮を必要とする学生の支援・対応の一層の充実のためのヒント集として、また、研修の資料としてご活用いただければ幸いです。

1

## ●支援・対応ガイドについて

支援・対応ガイドは、機構が運営する能開大等における授業（講義、実習、実験）、課外活動、就職指導等の各々の場面で、配慮を必要とする学生に対し行った支援等の事例を基に分析を行い、支援・対応方法の参考となるようイラストを活用して分かりやすく説明したヒント集です。同時に、配慮を必要とする学生の支援・対応に係る研修のテキストとしても活用いただけます。

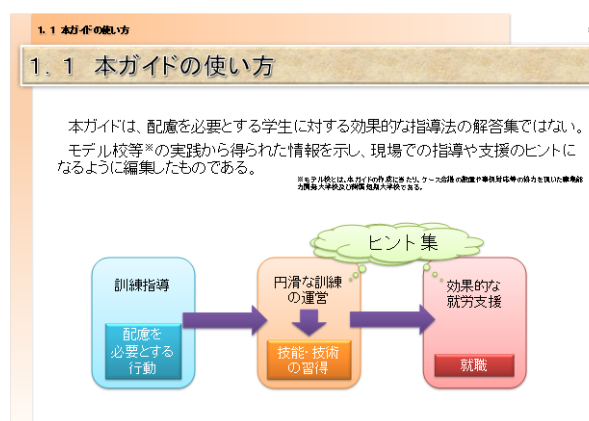


2

## ●支援・対応ガイドの概要

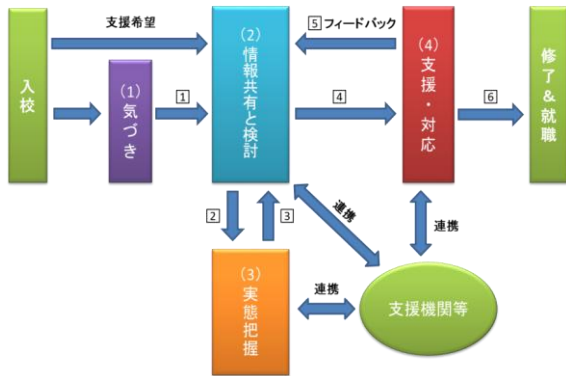
### 第1章 支援・対応ガイドの活用方法

1. 支援・対応ガイドの使い方
2. ガイドで使用されている「指導」と「支援」の定義の違い
3. 配慮を必要とする学生から想起される障害
4. 実際に能開大等で報告のあった障害の概要
5. 校全体での支援と対応の必要性
6. 関係法令



## 第2章 配慮を必要とする学生への支援の流れ

能開大等で配慮を必要とする学生に対する支援・指導を行うため、事例をもとに整理した支援の流れを図に示し、各々の段階ごとに各場面でイラストを活用しながら説明しています。



### (1) 気づき

日々の学生の行動の中から、事例を分析し、配慮を必要とする学生の行動特性の気づきのポイントと同時に、対象となる行動に至る原因などを記載

2.1 実態の流れ - (1)気づき

**【授業中の気づき】**

- 他の学生に比べて物や机にぶつかるよう、衝動が抑えられず、周囲の視線が気になり、身が震ったりする
- 授業の進捗が追いついていない
- 教室や物置の扉が閉まっていると必ず開けてしまう
- 机を揺らすなどの行為を繰り返している
- 机に当たる物や道具を指差したり、壊したりする
- 授業中に机を動かすことがある
- 授業中に周囲の学生や教員に話しかける
- 授業中に机を動かすことがある
- 授業中に机を動かすことがある

**【もしかしたらこんなことが原因です】**

- 視覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい
- 聴覚の刺激に敏感になりやすく、集中しにくい

### (2) 情報共有と検討

情報共有と検討の方法などを記載

## 第3章 各種の情報

外部支援機関などの概要や本ガイドで使用した言葉の定義などが記載されています。

### (3) 実態把握

面談するときの環境の調整法、面談などを通して本人の状況を把握する場合のノウハウなどを記載

### (4) 支援・対応

集合訓練の中で個別支援を行うことなく、訓練を行っていくための工夫、就職指導を行う場合の相談、支援方法に関する流れなどを記載

また、他の支援機関へ相談する場合の情報や相談の仕方なども記載

2.1 実態の流れ - (4)支援・対応 - ①行動特性把握の調整法の工夫

授業での行動特性	工夫事例
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中、外の音や机の上のものが気になり気が散って説明が聞けない</li> <li>授業の時に、いつと違うものがあると気になり授業に集中できない</li> <li>遠回しな表現では理解できない</li> <li>想像を含む説明をするとう理解できない</li> <li>授業中の冷房、暖房などの温度変化に敏感に反応し寒がったり暑がったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気が散らないように座席は、前の方にした</li> <li>授業中に机の上のものを整理した</li> <li>必要のないものは隠す</li> <li>必要になるまで授業に置いておくこと</li> <li>講義が中心になるよう授業の時は、机の上の温度調整を控えないようにした</li> <li>コンピュータが前にあるとキーボードで遠くでインターネットをつないでいる</li> <li>教材に動画などを利用し視覚的にわかるようにした</li> <li>具体的なものや写真を見せて説明する</li> <li>服装で調整するように本人に伝え、着る服を調整させた</li> <li>教室ではできるだけ、温度変化が少ない場所を選びその席に座らせた</li> </ul>

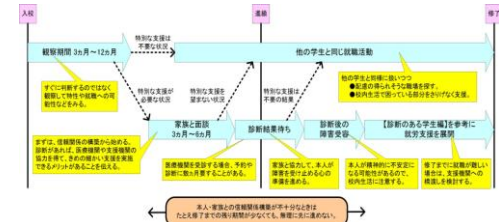
→ 授業中の使用

→ 具体的にビデオやイラストでの説明した

→ 机での調整

## 二 就職活動の流れ(診断のない学生)

- (イ) 特別な配慮が不要な状況(能力が高く就職できそうな場合)  
これまでの授業の様子から、働くという場面想定される本人の特徴について、本人・家族と情報を共有しながら、本人が能力を発揮でき、かつ理解ある職場への就職を促す。
- (ロ) 特別な配慮が必要な状況(支援機関の力を借りないと就職が難しい場合)  
時点をみて、本人と家族に障害の可能性を伝える。理解を示すまで、何度も面談を繰り返す。本人と家族の理解が得られ次第、医療機関を受診する。診断結果が出たら、地域障害者職業センター等の支援機関と連携した就職への進を促す。



2.1 実態の流れ - (4)支援・対応 - ② 就職活動の流れ(診断のない学生)

### お問合わせ先

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構  
職業能力開発総合大学校  
基盤整備センター 開発部高度訓練開発室  
・電話：042-348-5078  
・メール：[support@tetras.uitec.jeed.or.jp](mailto:support@tetras.uitec.jeed.or.jp)